

2020年度 独創的研究助成費 実績報告書

2021年 3月 31日

報告者	学科名	保健福祉	職名	講師	氏名	樟本千里
研究課題	幼児期の思いやり・規範意識を育む要因に関する研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	樟本千里	岡山県立大学・講師	教育心理	計画者・調査実施	
	分担者	首藤敏元	埼玉大学・教授	教育心理	助言・調査協力	
研究実績の概要	<p>保育者が『道徳性・規範意識の芽生え』の指導援助に対してどのような意識をもち、実践しているのかについて示し、道徳性や規範意識を引き出す保育者の指導援助の方法として「言語的働きかけ」に焦点を当て、保育者の適切な「言語的働きかけ」が子どもの思いやり・規範意識を育む要因の一つであることを説明することを示そうとした。</p> <p>子どもの認知的な処々の発達が、道徳性や規範意識を押し上げることは明らかにされていたが、保育者の関わり方からは検討されてきていなかった。保育者の声のかけ方によって、子どもの受け取り方が違うことが示されることによって、園生活の中での保育者の言葉のかけ方によって、子どもの道徳的な行動や、規範意識が高まることが示されることは、保育者が子どもへとどう接したらよいかの方向性を示すこととなり、これまで検討されてこなかった独創的な観点であると考えている。</p> <p>保育者の道徳的なかわり方が、子どもにどのように認知されているのかを示すことを通してこれらを明らかにしようと、子どもへの面接調査を計画したが、社会的状況によって実施が困難であったため、保育者50名へのWeb調査へと変更した。</p> <p>調査内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化的自己観（相互独立性－相互協調性） 2. 教室の風土 3. 子ども発達期待 4. 共感的コミュニケーション 5. 道徳・配慮の指導方法 					

※ 次ページに続く

研究実績 の概要	<p>現在、調査を終えたところであり今後分析を進めていくものとする。文化的自己観から保育者を分類し、教室の風土や子どもへの期待の違いを示していく。さらに、文化的自己観の在り様からの道徳・配慮の指導方法への影響を示していく予定である。</p>
成果資料目録	日本教育心理学会 63 回総会（2021 年 8 月 21 日（土）～30 日（月））発表予定